



ごあいさつ



日頃より、地域福祉の推進にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。
新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向にありますが、長引くコロナ禍に起因する経済困窮や孤立・孤独といった生活課題は、今後も様々な問題へと広がることが危惧されます。
地域の活動も徐々に戻りつつありますが、世田谷区社会福祉協議会は、これからも生活課題や生きづらさを抱えた方に寄り添いながら、様々な事業活動を通して、地域住民や関係団体の皆さまと共に、安心して暮らせる世田谷を目指して参ります。

世田谷区社会福祉協議会 会長 吉村 俊雄

世田谷区社会福祉協議会
令和4年度の

主な取り組み



Topic
01

4月：地域で支える食の支援事業の拡充

食品寄付を増やすとともに食品保管庫の確保や運搬等の流通体制づくりを行い、生活困窮世帯や子ども食堂等への支援を拡充。

Topic
02

4月：世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」の開設

メルクマールせたがやとともに、世田谷区や関係機関と協働し、ひきこもり状態にある方とその家族に寄り添った相談・支援を行う窓口を開設。

7月：成年後見制度の中核機関として地域連携ネットワーク会議の開催

成年後見センターでは成年後見制度の利用促進に向け、後見人等や地域の支援機関とともに、支援を必要とする区民を支える地域連携ネットワークの構築・推進を図るため、年2回会議を開催し、連携を強化。

9月：「生活福祉資金（特例貸付）」申請受付終了

令和2年3月25日から申請受付窓口を担ってきた「生活福祉資金（特例貸付）」の申請受付が9月末日で終了。延べ申請件数は、46,629件と都内最多。

Topic
03

11月：3年ぶりの「地域福祉推進大会」の開催

「コロナ禍での取り組みから、これからの地域福祉を考える」と題し、感染対策を講じて開催。

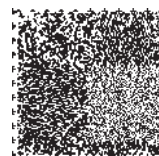
Topic
04

12月：住民ニーズに基づく買い物支援の取り組みの開始

日常生活に不可欠な買物を支援するために、企業と連携した移動販売車を誘致。さらに交流の場づくりへ。

2月：世田谷区社協ホームページのリニューアルオープン

構成やデザインを見直し、情報が探しやすいようにリニューアル。



topicについて、次ページ以降に詳細を掲載しています

4月より世田谷区社協内に食支援チームを新設し、組織内の食支援事業を包括的に推進しながら、生活困窮世帯や子ども食堂などへの支援を拡充しています。フードロス削減のフードドライブの取り組みや企業や個人からの寄贈食品を有効活用し、生活にお困りの方等に食品をお渡ししています。

企業や家庭からの食品の提供や寄贈

令和4年度実績 (2023/1/31現在)

世田谷区フードドライブ事業 **9.2**トン

地区フードドライブ(社協・地域団体) **2.4**トン(開催数56回)

企業・個人寄贈 **17.4**トン



※フードドライブとは、家庭で余っている食品等を持ち寄り、広く地域の福祉団体や施設等に無償で提供する活動です。

世田谷区フードドライブ事業の流れと様子



いただいた食品は地区サポーター等のボランティアさんにご協力いただき、仕分け作業を行っています。



食品の活用先

令和4年度実績 (2023/1/31現在)

子ども食堂等の団体へ 延べ **1083** 団体

※子ども食堂、フードパントリー団体、福祉施設、学習支援拠点

食支援が必要な世帯へ **853** 世帯

※ぷらっとホーム世田谷・各地域の社協事務所でお渡しした総数

その他、社会福祉法人との連携によるフードパントリー(個別配付)等でも活用しています。

子ども食堂とは

共働き家庭やひとり親家庭などで遅くまでひとりでも過ごす子どもたちの「孤食」、経済的理由による「欠食」などを少しでも減らすため、無料または安価な料金で食の提供等を行う地域活動です。区内で約60団体が活動しています。



食支援ウェブサイト せ★たべる

活動団体とのマッチング機能のほかに社会福祉協議会からのお知らせや活動団体の紹介等を掲載しています。ぜひ一度ご覧ください。

せたべる



▼身近な地区でのフードドライブの開催情報も掲載しています。



世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」の開設

「ひきこもり」をキーワードに相談ができる窓口が三軒茶屋に開設されました。

世田谷区社協が区からの委託により、運営している生活困窮者等の相談窓口「ぷらっとホーム世田谷」と「メルクマールせたがや」が協働し、4月からひきこもりの方やその家族の相談窓口としても役割を担っています。

世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」

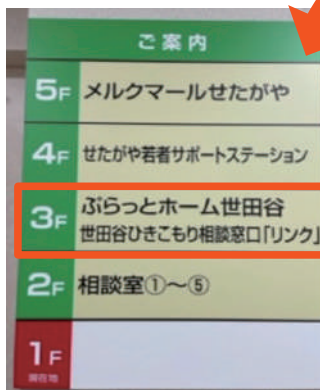
社協 ぷらっとホーム世田谷 (自立相談支援機関)

家計相談(障害年金の手続き・各種債務や滞納整理・世帯全体の家計相談など)、生活全般の相談、セミナーや体験等の参加、就労相談、家族会の案内など

メルクマールせたがや

個別相談(本人および家族)、居場所機能、出張相談会、家族会、アウトリーチ
※公認心理師、精神保健士など専門のスタッフが対応

2つの機関が役割分担しながら運営されています。



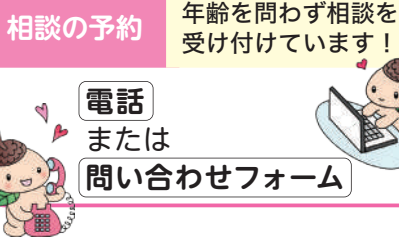
場所は、キャロットタワー隣のビルにあり、ぷらっとホーム世田谷と同じフロアです。

相談受付の流れ

ご相談は**当事者・家族・支援者・関係者**、どなたからでも受け付けます。



ちょっと心配…気にかかる…
何ができるかな…
そんな時はお問合せを!



相談員がお話をお聞きします。



支援の内容

ぷらっとホーム



メルクマール

親面談



子面談



体験や就労支援
有償ボランティアも!



居場所
メルぷら「むすびば」



当事者会



生活の
困りごと

障害年金
一人暮らし
など



生活の困りごと

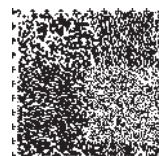
家計(FP)
相続(弁護士・後見センター)
など専門家相談



家族会



メルク家族会



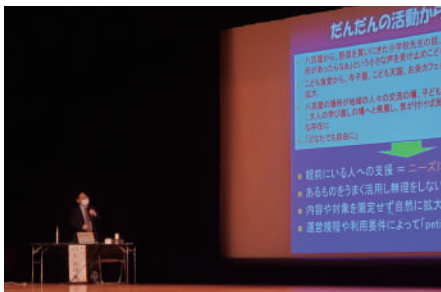
3年ぶりの「地域福祉推進大会」の開催

令和4年11月27日(日)成城学園澤柳記念講堂にて『コロナ禍での取り組みから、これからの地域福祉を考える』と題して、地域福祉推進員と子ども食堂関係者を対象に、3年ぶりとなる地域福祉推進大会を開催しました。

「こども食堂」の名付け親として知られる(一社)ともしびatだんだんの近藤博子氏と、駒澤大学文学部社会学科教授の川上富雄氏を講師としてお招きしました。

「目の前の人の小さな声を受け止め、行動し、つながり・つなげていくこと」を大切にしている近藤氏からは、こども食堂、寺子屋、産前産後保健室など、多様な地域の居場所づくりの実践報告を頂きました。川上氏からは、地域福祉も地域防災も、支え合いや気に掛け合う共感原理に基づく活動であることから、そのためには、まず地域の中で住民同士が繋がり、知り合うことが大切であることなど、今後の参考になるお話を伺いました。

参加者からは「改めて、地域・人の繋がりを作ることを大切にしたいと思った」「まずは、目の前のことから取り組みたい」等、今後の活動に向けた力強い感想が多く寄せられました。



駒澤大学 文学部社会学科教授 川上富雄氏



(一社)ともしびatだんだん 近藤博子氏



会場の様子

住民ニーズに基づく買い物支援の取り組みの開始

上用賀5丁目区営アパートと玉川3丁目区営アパートにおいて、企業との連携により、移動販売車を誘致した買い物支援がそれぞれ週2回始まっています。

団地の居住者の皆さんや地元の区議と意見交換を重ねる中で、「駅の近くまで買い物に行くのはとても大変」「帰りは荷物もあり疲れてしまうので、タクシーを使うと出費も嵩んでしまう」「移動販売車なら自分で品物を選べるのがうれしい」など切実なお声をお聞きしました。移動販売を実施する企業と調整を重ねながら、PRには町会・自治会、民生委員の皆さまにもご協力をいただき、昨年末にスタートしました。

社協では、区内に点在する“買い物不便エリア”において、移動販売方式をはじめ、地域の実状に応じた方法で買物支援の仕組みづくりに取り組むとともに、住民相互の見守りと交流の場の創出など、コミュニティづくりも視野に入れ、生活支援の強化に努めてまいります。

